

令和4年 6月「月報」

1 はじめに

5月31日現在の新型コロナウイルス新規感染者数は、危惧された5月連休間の人流増加による爆発的感染もなく、全国で22,022人となっています。

感染者の極端な減少には至らない状況が続いており、政府は、経済回復と感染対策の節調を図りながらの経済刺激策を模索しつつあります。

本会も、With コロナの認識のもと、感染対策には十分注意しつつ、本来の活動に逐次戻していきたいと考えます。このため、6月の総会・理事会をはじめ、本会主催の防衛講演会（8月27日に長崎県家族会担任、9月17日に福島県家族会担任）などを円滑に開催すべく両県家族会と連携しつつ準備を進めています。

一方、国連のウクライナへの人道救援物資の輸送支援に、5月以降、航空自衛隊が空輸を継続中であり、本会の「自衛隊の活動支援基金」による激励を実施しました。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 国連のウクライナへの人道救援物資を自衛隊機で輸送

4月28日、政府は、ウクライナ避難民支援のため国連平和維持活動協力法に基づく「人道的な国際救援活動」として、自衛隊が毛布などの人道救援物資をUAE（アラブ首長国連邦）のドバイにある国連の備蓄倉庫からポーランドやルーマニアに運ぶ計画を閣議決定しました。

これを受け、航空自衛隊は、5月1日に第1陣が、その後11日、18日、25日、6月1日に輸送機が出発、それぞれ人道救援物資を輸送しました。

ア 5月11日、美保基地を出発したC-2輸送機1機は、UAE（ドバイ）で人道救援物資を積載した後、日本時間13日（金）夜にルーマニア（ブカレスト）に到着し、国連難民等弁務官事務所に物資を引き渡し、16日に帰投しました



美保基地を出発するC-2

イ 5月18日、C-2輸送機1機が、人道救援物資をポーランドへ輸送するため、入間基地を出発、輸送任務を完了し、23日に帰投しました。

ウ 5月25日、C-2輸送機1機が、人道救援物資をルーマニアへ輸送するため、美保基地を出発、輸送任務を完了し、30日に帰投しました。

エ 6月1日、KC-767輸送機1機が、人道救援物資をポーランドへ輸送するため、小牧基地を出発しました。

(2) ジブチの自衛隊活動拠点開設10周年記念行事

5月5日(木)、ジブチの自衛隊活動拠点において、拠点開設10周年記念行事が開催されました。

式典には、ジブチ政府軍関係者や各国在ジブチ大使をはじめ、ジブチ駐留の各国軍代表が出席するとともに、日本からは中曽根防衛大臣政務官が参加し、自衛隊の活動への理解促進を図るとともに、各国との親交を深めました。

また、開設記念行事に伴い派遣された陸上自衛隊中央音楽隊は、開設記念行事や他国軍基地等における演奏の他、現地のフクザワ学校において演奏会を実施し、地元の子供たちに日本の童謡等を披露しました。



現地隊員を激励する中曽根政務官

(3) 海上自衛隊創設70周年記念式典

4月26日、海上自衛隊創設70周年記念式典が、海上幕僚長(酒井良海将)を執行者として横須賀芸術劇場で行われ、鬼木防衛副大臣、島田防衛事務次官、吉田陸上幕僚長、井筒航空幕僚などが出席しました。

酒井海上幕僚長は、式辞において「ロシアによるウクライナ侵略が象徴するように安全保障環境は激しく揺れ動き、科学技術も劇的に進化している」と指摘し、「わが国の防衛政策も転換点を迎え、海自も大胆に加速的に発展していく必要がある」と述べました。



記念式典の様子

3 家族会の活動

(1) 令和4年度第1回理事会(書面決議)の結果

5月30日、本会は、以下の議案を第1回理事会(書面決議)に諮り、理事全員の同意と監事2名の異議なく、決議しました。

- ・第1号議案：令和3年度自衛隊家族会事業報告(案)
- ・第2号議案：令和3年度自衛隊家族会収支計算書(案)及び同監査報告
- ・第3号議案：任期満了に伴う役員改選(案)
- ・第4号議案：県自衛隊家族会会長人事(案)

(2) 第16次派遣海賊対象行動支援隊派遣隊員一同からの礼状の紹介

5月19日、昨年7月から令和4年2月までの間、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため派遣された第16次派遣海賊対象行動支援隊派遣隊一同(派遣隊長：富田亘3等陸佐)からの礼状と記念の盾等が事務局に届けられましたので紹介します。



礼状とともに届けられた盾など

謹啓

新緑の候、家族会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先日、我々第16次派遣海賊対処行動支援隊派遣隊員約65名は、ジブチ国での任務を完遂し無事に帰国しました。

派遣間は、酷暑に加えコロナ環境下の厳しい任務となりましたが、並々ならぬご支援ご厚情を賜り任務を完遂することができました。ジブチ国では、皆様の激励が我々の活力となり存分に任務に邁進することができました。

今後、派遣隊員は、それぞれの中隊に復帰し中央即応連隊の隊員として新たな任務に備えて訓練に励み、より一層任務遂行能力を研ぎ澄ませておく所存でございます。これからもご指導ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

末櫃ながら、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げ御礼の挨拶とさせていただきます。

謹白

令和4年5月吉日

第16次派遣海賊対処行動支援隊派遣隊員一同

(3) MF0 司令部要員への激励

シナイ半島でエジプト・イスラエル間の停戦監視等の活動を行う多国籍部隊・監視団（MF0）の第4次司令部要員として、6月初旬に出国予定の梅原良平2等陸佐及び佐藤太軌^{たいき}3等陸佐の両名に対して、5月13日、本会からの激励・慰問品を土谷事務局長から贈呈し、1年間にわたる現地での活動を激励しました



MF0 司令部要員への激励

(4) 第42次派遣海賊対処行動水上部隊への慰問・激励（長崎県家族会）

5月20日、長崎県家族会（浦田正会長）は、第42次派遣海賊対処行動水上部隊（佐世保基地の護衛艦「はるさめ」の派遣隊員約210名）への本会からの慰問・激励を担任するとともに、長崎県家族会からも慰問・激励を行いました。

当日は、浦田長崎県会長、横尾同事務局長、沖藤佐世保地区事務局次長の3名が、佐世保基地の倉島岸壁を訪問し、「はるさめ」艦長の伴昌幸2等海佐及び専任伍長の中渡誠海曹長に慰問・激励品を贈呈しました。

派遣隊員のご活躍と無事の帰還を祈念し、出国前のあわただしい中での、本会からの激励となりました。「はるさめ」は、多くのご家族に見送られ出航しました。



伴艦長へ激励品を贈呈する浦田会長

(5) 第48次派遣海賊対処行動航空隊への慰問・激励（沖縄県家族会）

5月20日、沖縄県家族会（古門茂夫会長）は、第48次派遣海賊対処行動航空隊（那覇基地の第5航空群基幹）への本会からの慰問・激励を担任しました。